

令和8年度 市長との対話集会（小浜地区） 議事要旨

日 時：令和8年9月30日（水）19時00分～20時40分

場 所：咲楽館

参加者：28名

テーマ：「サバ缶、宇宙へ行く」のその先へ ～小浜の挑戦から考える学びとブランドづくり～

1 参加者からの主な意見

(1) 定住・移住促進・まちづくり

- ・歴史的建造物などの既存資源を価値あるものとして保全し、移住者が利用できるシェアハウスや体験型宿泊施設（ホテル等）の整備を図る。
- ・各地区に点在する空き家を集約・再開発し、コンパクトなまちづくりを進めることで、冬季の除雪などの負担軽減を図る。
- ・Uターン・Iターン希望者が定住できるよう、駅前などの整備を行い、若者や市外から人が集まる魅力的な地域づくりを進めてはどうか。

(2) 産業振興・雇用創出

- ・水産業をはじめとする一次産業の事業継続や企業誘致等を通じて働く場所を確保し、定住人口の増加を図る。
- ・再生可能エネルギーの推進や、設備投資への支援を充実させてはどうか。

(3) 教育・子育て・若者支援

- ・県立大学に限らず、都市部の私立大学等の教育課程を誘致し、小浜で生活しながら学べる機会を創出することで、大学生の定住や関係人口の増加を図る。
- ・子育て支援策（補助金など）をさらに充実させ、仕事と子育てを両立しやすい環境を整えることで、少子化対策を図る。
- ・若者や子ども達の意見を拾い上げ、まちづくりや教育施策に反映できる仕組みを構築してはどうか。

(4) 観光振興・イベント・文化継承

- ・川崎地区に水族館や屋根付きのイベント会場を整備し、天候に左右されない観光客誘致とイベントの開催を図る。
- ・マーメイドテラスの「人魚の像」の愛称を公募する企画や、食のまつりと放生祭などのイベントの同時開催・広域連携を推進し、小浜全体の魅力を発信してはどうか。
- ・歴史的な町並みや風景をVR（仮想現実）などの最新技術を活用して復元し、地元愛の醸成や観光資源としての活用を図る。
- ・各地区の神事や祭りの維持・発展において、人材不足の課題を解決するため、行政やまちづくり団体が主体となってコーディネート機能を発揮してはどうか。

(5) 高齢者福祉・地域コミュニティ

- ・90歳以上の高齢者によるアイドルグループの結成など、高齢者が元気に活躍でき、市外の人々も楽しめるウェルビーイングなまちづくりを進めてはどうか。

2 市長からの主な回答

(1) 定住・移住促進・まちづくり

- ・古い建物を残して付加価値を見出すことは重要であり、空き家をお試し住宅として活用するなど、移住のきっかけとなるサポートが出来ると良い。
- ・20年後の将来を見据え、食に関する先端的な研究機関の誘致や、ホテルや文化施設の整備など人が集まる場所づくりを長期的な視点で検討する。

(2) 産業振興・雇用創出

- ・若者が挑戦できる「チャレンジエリア」を創出し、小浜のブランドづくりや先端技術の研究を通じた新たな産業・雇用の創出が図れると良い。
- ・県営産業団地における企業誘致を進めるとともに、市内企業と高校生が連携して地元企業の魅力を発信する取り組みを継続・支援し、若者の地元就職を促進していく。

(3) 教育・子育て・若者支援

- ・大学生の増加に向けて、大規模なキャンパス建設にこだわらず、オンライン等を活用して国内外の大学と連携した研究・教育の拠点を構築していく方法も検討していきたい。
- ・「こども未来会議」のように若者や子どもたちが直接意見を交わし、まちづくりに反映できる場を今後さらに拡充していく。

(4) 観光振興・イベント・文化継承

- ・食のまつりと放生祭の同時開催やイベントの広域連携など、ハードルはあると思うが発想は面白い。地域の理解が得られれば実現する可能性があるため、今後検討してほしい。
- ・歴史的風景をVRと人力車を組み合わせて体験できるような、若者がテクノロジーを活用して挑戦できる観光サービスの環境を整備することで、地元愛の醸成やふるさと納税の好循環につながる可能性がある。

(5) 高齢者福祉・地域コミュニティ

- ・100歳以上の人口が増加する中、高齢者が健康で過ごせる「ウェルビーイング」「健康のまちづくり」を推進し、多世代が交流できる環境づくりを進めていく。